

BCAO 関西地域勉強会 令和3年10月度(第162回)合同勉強会

日 時 : 10月20日(水) 19:00~20:30

場 所 : Zoom

司会者・進行: 田中、質疑応答ファシリテーター: 野原、書記: 飯田

出席者 : 出席者: 関西(16)・仙台(12)・静岡(10)・名古屋(6)・岡山(3)・和歌山(1)・その他(3)
地域勉強会 51名

講演テーマ : 放送関係者が災害発生時にどのような報道を心掛けているか

講師 : 福本晋悟氏 MBS 毎日放送アナウンサー、

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター特別研究調査員、防災士

□ 講演内容

・災害報道は、被害が出た時だけではない。

緊急報道には災害直前期と災害発生期がある。

災害直前期は防災・減災報道で、予報・警報・避難情報呼びかけを行う。災害発生期は被災地内外への安否情報・被害報道がある。被災地外の視聴者にも早く正確に伝えることは、早急な救助・救援・ボランティアにつながる。

・なぜ、災害報道をするのか

関東大震災が放送開始の契機となった。地震で新聞社が被災して新聞が印刷できなかったため正しい情報が出ず、悲惨な出来事が起きた。その反省もあり1925年にラジオ放送がスタートした。

災害報道の目的は、住民の生命、財産を守るため。夜勤は災害報道対応が多い。

・各局の災害特番基準は多くの場合公開されていないが、おそらく震度6弱、津波警報が特番の基準

・映像、カメラ、ヘリなどのハード面とマニュアル・コメント集などのソフト面で備えている。

大地震を想定した災害報道訓練を実施している。緊急時には平時の放送時のような打ち合わせやリハーサルはできず、一刻でも早く番組をスタートする。

JNN 南海トラフ地震訓練の様子、MBS マンスリーレポートを映写

(<https://www.mbs.jp/monthly/archive/20210610/>)

MBS では毎日21:00から短時間訓練を行っている。

・緊迫感が重要な一方で、冷静な報道が重要

パニックにしてはいけない⇔安心感を与えてもいけない。

・災害報道の方法も更新、進化している。

津波警報発表区域の色表示は東日本大震災の時は局によって違っていたが、今は統一している。「津波危険⇔逃げて」の反転、TSUNAMI 英語表記も東日本大震災後東日本大震災を思い出してください、命を守るために行動してくださいなどより切迫感のある発信となった。

・災害時における報道機関の役割

人の役に立つことが使命、(自分たちも被災者)声を代弁、支援に結び付ける。

①報道機能: 災害の形態や被災の様子、被災者の状況、原因の背景

②防災機能

- ・報道従事者もジレンマを感じながら報道している
災害の実情を伝える⇔人の不幸を撮る、次の被害を防ぐ、少なくするため。
- ・災害情報をめぐる課題
センセーショナルリズム、映像優先主義、集団的過熱報道、クローズアップ効果、一過性、報道格差、中央中心主義など、課題を感じながら報道している。
- ・こんなことを仕事、研究をしています。
住民の防災のためにできることをすることが使命
地域を知っている地元局の力を発揮したい
ともに創り上げ、育て、思いを共有した報道を行う

□ 質疑(チャットへの質問のみ記載)

- ・災害発生時にはアナウンサーの方が同じ内容の報道を繰り返し繰り返しアナウンスされますが、繰り返す回数や繰り返す時間の長さはどのような判断にもとづいているのでしょうか。
- ・ニューステロップで、津波の心配の有無が出されることがあります。誰が判断しているのですか？すぐに情報が出せるのはなぜですか？
- ・キャスターの話し方(口調や中身そのもの)が昔と今で変わってきたと思います。これは意図的ですか？
- ・災害時はインターネット、SNSからの情報も多いと思いますが、流言・うわさ、あるいはフェイクも多数混じっていると思います。どのようにチェック、選別をされていますか。
- ・今は、放送局はSPECTEEの情報をトリガーとして災害や事故の取材を始めるようになったと聞きますが、そうなののでしょうか？
- ・緊急報道の元データは何を使われていますか？
- ・災害放送訓練の中で放送局の被害状況に合わせてどのような訓練をされているのでしょうか。
- ・被災地では、時間によって被災者が欲する情報は変わっていくと思います。災害報道は、発災直後は人命の安全確保が主体です。状況が落ち着いてから被災地に行き報道する場合に「被災者に寄り添った報道」が求められますがその際、どのようなことに気を付けて報道されていますか？
- ・大津波警報では、気象庁は、東日本大震災の教訓として、津波高を数字で示さず、巨大などの漠然とした表現にしたと思いますが、それは放送訓練ではどのように反映されているのでしょうか。
- ・災害地に出動することの危険をどのレベルでやめさせるのかなど指標はあるのでしょうか？今はドローンなどで撮影できると思うのですが、そちらに切り替えていっているのでしょうか。
- ・熱海の土砂災害は人災の要素が濃くなりました。昨日熱海市は静岡県よりもわかりやすい報告をだしています。この問題は事故が出ると騒がれ一定の時期をへて忘れられます。盛

土による土砂災害の危険箇所は全国に数え切れなく存在するようです。報道機関の社会性を試される案件だと思います。どのようにお考えでしょうか？

- ・今日の阿蘇山噴火(11:45頃)は、NHKは特番になっていましたが、他在京局は通常の番組でした。これは各局に考え方の相違なのでしょう吗？ 凄く違和感がありました。
- ・大阪湾の高潮広域タイムライン(事前防災行動計画)で防災関係機関が連携して防災行動を時系列に整理されています。国や都道府県の広域タイムライン、市町村タイムライン、コミュニティタイムライン及び災害ステージごとに、報道機関がどのように連携して地域に報道されていくか、そこで課題になることは何でしょうか？
- ・津波注意報や津波警報など、避難対象範囲が限られる場合でも、メディアでは全視聴者に対する発信となるので安全サイドに考えた内容となると思いますが、あまりにも過剰な避難の呼びかけ・恐怖をあおる呼びかけになると、避難の必要がない方も行政が避難所を開設していない状況で避難をしてしまう可能性があります。また、商業施設においては避難の必要がない状況でもメディアの避難呼びかけを見てお客様が避難しようしたり、避難誘導しない商業施設管理者に対して不信感を持つ可能性があります。加減が難しいですね。
- ・視聴者に行動を促す報道があると思いますが、これを実現するために、他の機関と連携することはありますか？
- ・呼びかけの内容として、テレビ、ラジオ、ネットでどのようなすみ分けをしていますか？ 内容は異なりますか？
- ・報道を止めないために局としてどのような備えをされていますか。万が一、放送が継続できなくなった場合の代替機能は準備されていますか。
- ・福知山脱線事故から報道のダブリをなくすように聞いていましたが、関西では先ほど協定がないといわれましたので、映像も共有しないということでしょうか。
- ・災害時にヘリの音がうるさく救出の邪魔になるとの意見をネットでよく見かけますが、実際にテレビ局に消防や自衛隊から具体的な苦情が来ることはあるのでしょうか？ また、そのような面で配慮をされているのであればどのようなことをされているのかお聞かせください。
- ・南海トラフ半割れ後、何事も無く1週間以上経過した後の報道文案は用意されていますか？

以上